

野菜の露地栽培は冬になると低温や降霜のために、生育が遅くなったり、寒害にあうなど、良品質のものが収穫できなくなるだけでなく、収量・出荷とも少なくなってきました。このような冬期に野菜栽培を行うには、防寒資材が大変役立ちます。

## トンネル栽培の効果

- **防寒・防霜**  
冬作の収穫期間を長くし、トウ立ちを防ぐ。  
最低気温を少しでもやわらげる。
- **防 暑**  
日差しをやわらげ、気温や地温の上昇を防ぐ。
- **防 風**  
強すぎる風勢をやわらげて株を守る。
- **保 湿**  
土壌の水分を保ち、乾燥を防ぐ。
- **防 虫**  
コナガなどの害虫が卵などを産み付けに来るのを防ぐ。
- **防 鳥**  
トマトなど野菜の実が鳥に食べられるのを防ぐ。

## 注 意 点

雨よけ効果があり、降雨による病害の発生は軽減されるが、トンネルを閉めたままだとトンネル内が過湿になり、病害が発生しやすくなるので注意する。また、気温の高い日は閉めたままだと葉が焼けてしまうので、天気を見ながら開閉を行いましょう。

トンネルを二重に張ることによって、保温性が格段に上昇する。二重に張る場合は、畝の大きさ等十分考慮して行うこと。寒冷紗等を組み合わせることにより、遮光・高温対策・害虫対策が行えます。

**秋野菜栽培終了後もトンネル栽培を活用し、冬場の野菜栽培に役立てていきましょう。**

裏面は果樹の剪定を掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.236 平成22年12月13日発行

## 剪定時期

剪定は大きく冬期剪定（休眠剪定）と夏期剪定に分けられます。果樹では一般的に剪定といえば、冬期剪定をいいます。夏期剪定は、摘心や芽かきも含めた呼び方をします。

冬期剪定の時期は、晩秋から発芽までの間（11月～2月頃）。落葉果樹は葉が落ちれば剪定できます。常緑果樹の中でも特に耐寒性の弱いものは、3月に入って寒さの心配がなくなってから行います。

剪定の早過ぎ、遅れは養分の損失などがおこるので注意しましょう。

## 剪定の目的

- 木を素直に育てる
- 作業をしやすくする
- 風害を少なくする
- 木の大きさを調整し制限する
- 枝、葉の混雑をさける
- 毎年良い実を平均的にならせる
- 管理をしやすくする

## 枝の切り方

- ① **切り返し剪定**…枝の途中（分岐点以外）で切る。
  - 骨組みになる枝を作る場合
  - 老齢枝（樹）の勢力を回復させたいとき
 ※切り返し剪定ばかりだと樹が強くなりすぎ、果実がならないときがあります。
- ② **間引き剪定**…枝の分岐の根元から切る。
  - 樹を落ち着かせるとき
  - 枝に日光を多く当てていたとき
 ※間引き剪定ばかりだと樹が弱ってしまいます。

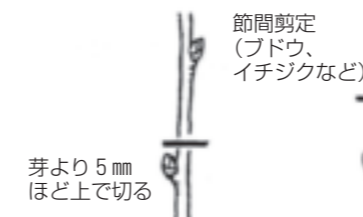
若い木の剪定では、骨組みになる枝以外は間引き剪定を主に。できるだけ弱い剪定を行って、早く木を大きくさせると共に花芽をつき易くさせます。

老齢枝（樹）には、やや強い切り替えし剪定を行い刺激を与えてやると、発育枝の発生が促されます。

## 剪定のポイント

- まんべんなく日光が当たるように剪定していきます。
- 太い枝は最小限に。一目見て主枝、垂主枝がわかるように行いましょう。

### 細い枝を切る



### 太い枝を切る

上から下に、切り口がもっとも小さくなるように切る



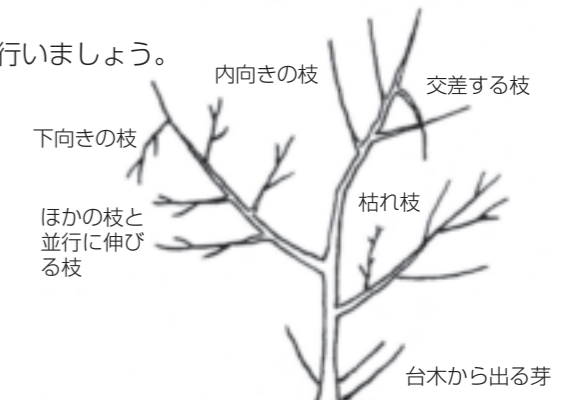
## 果樹種類と冬剪定の時期

果樹種類	冬剪定の時期
カキ	落葉～3月
ウメ	落葉～12月下旬
クリ	落葉～3月

## 間引き剪定と切り返し剪定



## 剪定するとき除去したい枝



裏面はトンネル被覆栽培を掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.236 平成22年12月13日発行